

長年の知見・ノウハウを活かした生産技術体制

国内外のグループ会社で使用する、金型や治具、ロボットを組み込んだ自動組立機など、多様な生産設備を手掛ける組織として、「生産技術センター」を設置しています。70年以上かけて培ってきた、生産技術に関するさまざまな知見やノウハウを活かし、生産効率の向上を図るための取り組みを日々行っています。

関連するマテリアリティ



生産性向上



安全・安心・ウェルビーイング

主なサステナビリティKPI (2024年度)

- 創業以来、IDECグループが培った制御技術、製品、システムソリューションの提供を通して、自社および世界中の顧客・社会の生産性、効率性の向上に貢献
- 技術開発・人材育成・マネジメント・社会ルール形成による安全性と生産性、ウェルビーイングの向上

- 労働災害度数率 **0** (IDEC単体)

生産技術センターで、金型・生産設備の設計・製造を行うことで生産性を向上

IDECの生産技術センターでは、多様な生産設備を手掛けており、国内外の生産事業所に導入することで、ものづくりの強化と、継続的な生産性向上を図っています。

製品を製造する上でコアとなるのは、金型技術を含む高精度加工・組み上げ技術です。金型には、溶融したプラスチック材料などを流し込み、冷却固化させて成形する「モールド金型」、板状またはテープ状の金属材料の剪断や曲げ加工を行う「プレス金型」があります。これらの技術が、製品の品質を決めると言っても過言ではなく、メンテナンスも社内で行うことで、製品品質の維持・向上を図っています。金型の設計・製造を行うことができる技術力と、さまざまな組立工法を実現して

きた組立技術を基に、製品設計部門とコンカレントに連携することで、より効率的な生産を実現することが可能となります。

金型以外にも、生産現場に導入するさまざまな設備を内製化しています。生産数量や形状が異なる製品群の特性に合わせて、多様な生産方式の中から最適な生産設備を選定し、組み合わせることで、国内外の生産事業所に導入することで、生産性の向上を推進しています。IDECのスイッチや安全関連機器などを活用することで、設備の安全性を担保しています。

また、IDECグループ全体の品質向上のため、国内外の生産拠点におけるQCサークル活動、全社品質会議による課題解決のレビューによって、継続的な改善を実施しています。全社員への継続的な品質教育の実施やQC検定[®]取得を推奨し、2023年4月末時点で660名が資格を保有しています。

※QC検定[®]は、一般財団法人日本規格協会の登録商標です。



担当者の声

生産の構造改革により
品質・生産コスト・納期を
徹底的に追求

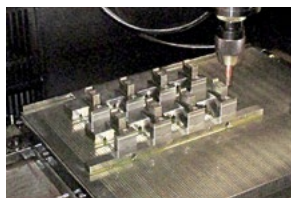
IDEC株式会社 生産本部 本部長
湯口 大輔

IDECは創業以来培ってきたHMI、安全に関する知見を活かし、高品質・高信頼性の製品をグローバルに提供するとともに、品質や生産効率の向上、自動化を推進することで、ものづくりを通して世界中の人々の安全・安心・ウェルビーイングの向上を目指しています。これまで、生産拠点の再編や生産能力増強などの対策を講じてきましたが、今後IDECのものづくりが製造業を取り巻く激しい環境の変化に対応するために、自己を変革していく能力の強化こそが我々の重点課題として捉えています。

今、生産本部は大きな変革、転機を迎えています。IDECグループが100周年に向けて持続的に成長し続けるため、さらなる生産の構造改革を行い、品質・生産コスト・納期を徹底的に追求していきます。



金型製作工程



モールド金型



樹脂部品の成形ライン



自動組立ライン